令和元年度 学校評価

学校教育目標 「一人一人を大切にし 共に生きる心と力を育てる」 めざす学校像 「みんなの瞳 輝く 学校」 ~挨拶・協力・感謝の実践化を通して~

<重点目標>

①知・徳・体をバランスよく育て、「自ら生きる力」を育む

②基礎的基本的な学力の定着をはかり、主体的に学び、考え表現する力を育てる

③生徒の主体的な活動の活性化をはかり、「共に生きる心と力」を育む

④いのちを大切にし、人権を尊重する教育を推進する

⑤一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行う

⑥危機管理意識を高め、安全・安心な学校を創造する

⑦教職員としての指導力と資質向上に努め、よりよい組織形成をめざす

⑧地域から信頼される教育の環境づくりに取り組む

〇評価基準

4:よい

3:ややよい 2:やや悪い

1:悪い

評価指数とは (4×4の人数)+(3×3の人数)+(2×2の人数)+(1×1の人数)/合計人数

評価指数の平均値は2.5 平均3.5以上で○、2.5未満で△(そのうち2.0未満を▲)として表示

領域		質問項目 (学校の自己評価アンケート)			価指 H30		H28	3	質問項目 (保護者・生徒アンケート)	評価指数 R1 H30 H29 H28				H28		関係者評価
学校生活全般	1	生徒のあいさつ	0	3.5	3.2	3.5	2.7	生	地域や学校で進んであいさつができた。	0	3.5	3.4	3.4	3.3	・登下校や部活動時のあいさつはでき ていると感じるが、来客へのあいさつや 地域でのあいさつでは、不十分であ	・全体的に挨拶はできている。通学時間に 通学路で立って笑顔で挨拶をしていると、生 徒も笑顔で返してくれる。
	2	± 16070370 C 1		0.0	5.2	0.0			自分から進んであいさつをしている。		3.1	3.1	3.1	3.0	る。継続指導を行う。	・今の社会環境の下、子どもたちが、知らない人に自ら声をかけることができないのはし
	3	生徒の協力性		2.2	3.3	2.1	2.0	生	係や班活動、行事などで級友と協力して取り組んだ	0	O 3.6 3	3.4	3.5		果に甘んじることなく今後も周りの人へ の感謝の気持ちを大切にしつつ、充実	かたがない。 ・学校に任せるだけでなく、地域や家庭でも
	4	・		3.3	3.3	3.1	2.0		家庭の中で協力的		2.9	2.9	2.8	2.8		
	5	まわりへの感謝						生	周りの人に感謝している	0	3.6	3.5	3.4	3.4	感・満足度が高まるようさらに努力したい。	
	6							生	学校生活は充実している	0	3.5	3.4	3.4	3.4		
	7	学校生活での充実度	0	3.6	3.4	3.4	3.2	保	学校生活を充実感・満足感をもっている		3.2	3.1	3.1	3.0		
	8							保	学校は子どもが学習するのに適した環境 である。		3.1	3.0	2.9	2.7		
	9	** 177.40.41	_	0.5					ベルスタはできた	0	3.5	3.3	3.4	3.4	・学習規律を守りベルスタは定着し、全体として落ち着いて授業に取り組めて	取り組むようになる。
	10	学習規律	O	3.5	3.6	3.4	2.7		準備物宿題提出物		2.9	2.9	2.8	2.8	いる。準備物・宿題・提出物等の忘れ 物に課題を感じている生徒がいる。	・授業の中で先生の生きざまを教えることは 大切だと感じる。そんな話の方が社会に出 た時に役立つことが多い。
	11						2.5	5	授業はわかりやすかったか		3.0	2.9	3.0	2.8	・協同的探究学習の日常化を目指し、 できる学力だけでなく、わかる学力、他 者から認められることによる自己有用 感の醸成に努めていく。	た時に役立つことが多い。 ・協同的探究学習を通じて、他人の意見を聞き互いに認め合うことが大切である。子もの時から、このように他者を認め、相互理解することを踏まえた授業というのは大変
学 習	12	基礎的な知識技能、学力の定着		2.8	2.7	2.7			授業内容を理解している		*	*	3.2	2.7		
百 〈 学	13	思考力・判断力・表現力		2.6	2.6	2.5	2.2									ばらしい。 ・ノー部活デーに補充学習をするのは良いが、先生の負担にならないのか心配であ
力向	14	ことばのカ		2.7	2.5	2.3	2.1]前などで、「自学自省できる力や省慎を 身につける」ことを目標に全校的に取り 組む。	
上	15							生	家庭での学習時間は。3時間以上~30分 以下		2.5	2.5	2.4		・公開授業週間を活用して互いの授業	
	16	家庭学習		2.6	2.8	2.8	2.4		家庭学習の習慣が身についている		2.6	2.6	2.6	2.5	- 力向上を図る。 ・平日のノー部活デーの放課後に、個	
	17	数師の授業力向上		2.8	2.6	2.6	2.6								別の学習会をするなど検討したい。	
	18	個に応じた教育的支援		2.8	2.7	2.7	2.6	保	学習の様子や努力を適切に評価している		3.1	3.0	2.9	2.9		
	19							生	思いやりの心をもち、人を大切にしている	0	3.7	3.6	*	*		・人それぞれ、様々な考え方があり、一人一人の意見が違っていていい。お互いに認め合い相互理解する力を子どもの時から身につけることに意義がある。
	20	生徒の道徳性を養う		3.0	2.7	2.8	2.5		思いやりの心をもち、人を大切にしている		3.4	3.3	*	*		
人 権	21	生徒の同和教育への知識理解度		2.5	2.5	2.4	2.3								め教育活動全体を通じて行う。 ・道徳教育については教科化になり、	・心の教育は、学校で行うだけでなく、家庭 地域が一体となり担うべき役割である。
• 道	22	 人権・道徳の授業力		2.8	2.6	2.5	*								年間計画を見直すとともに、授業力向 上や実践力向上に努めたい。	
徳	23	計画からの実施状況		3.0	2.6	2.7	2.6								・みかしお学級については、職員研修	
	24			3.1	2.8	2.9	2.5								を通して共通理解をはかり、学級生の 意欲的な取組を支援したい。	
特即	25	行事、生徒会活動		3.0	3.2	3.2	2.9	生	委員、係の活動に積極的に取り組んだ	0	3.5	3.3	3.3	3.2	・生徒会活動を外部から見ると充実しているが、生徒会担当者や生徒会役員	」 ・生徒会活動は、生徒自らが考える活動が 大切である。大人が生徒に課するよりも、≤
別 活 動	26	部活動を通しての成長		3.1	3.1	3.2	3.0								の負担は大きい。	徒が主体的に行いたいと思う活動を優先すべきである。
	27	生徒の服装・頭髪の乱れ	0	3.6	3.4	3.2	2.4								・生徒指導体制が整い、組織的に対応している。報告連絡相談などの連携体	・社会のルールは大人が教え、学校内の細 かいルールは生徒が自ら決めればよい。学
#	28	生徒の服装・頭髪以外の生活ルール		3.3	3.2	3.1	2.4	生	ルールを守って生活した	0	3.6	3.6	3.5	3.4	制の徹底を継続していきたい。	校が細かく決めてブラック校則化してはいりない。
生 徒 指	29	生徒指導力の向上		2.8	2.6	2.6	*								」・生徒指導・不登校・いじめ対策推進委 員会を機能させ、早期発見、早期対応 だけでなく予防・開発的生徒指導に努	・校則を守らせることが目的ではない。なせ 校則を守らなければならないのか、子どもが ちが自ら考えることが大切である。
導	30	教師間の共通理解や指導の方向性		3.2	2.9	3.1	2.6								たけではくア防・開発的生使指導に劣めたい。	こうかいこうかんのことが入り、このの。
	31	学年間の連携		3.1	2.9	2.9	2.6								・細かなルールづくりや共通理解だけでなく、生徒の規範意識の涵養に努め	
 家	32							保	見状や取り組みを、便りやホームページなどでわかりやすく伝えている。		3.1	3.1	3.1	3.0	たい。 ・保護者や地域にとって開かれた教育 の場となるよう一層の努力の必要性が	 ・土日のノー部活デーに、塾に行かせたり、 生徒同士で遊ばせたりするのもよいが、もっ
· 庭	33							保	学校をよく知ってもらうために、参観できる 機会を適切に設けている。		3.2	3.2	3.0		ある。	と家族と過ごす時間も必要である。 ・学校教育だけでなく、家庭の教育力、地域
地 域		PTA、地域、ユニットなどの取り組み		3.3	3.1	3.2	2.9	保	機会を適切に設けている。 学校行事にできるだけ参加している		3.3	3.3	3.2	3.2	・ユニットだよりを地域回覧することで学校園だけでなく、地域にもユニットの 取り組みを広く知らせることができた。	の教育力で子どもを育てなければならない ・大人がやりすぎて、子どもが自ら考え、行 動する機会を奪っていることがある。大人に
との	35							保	子どものことについて、気軽に相談することができる。		3.0	2.8	2.7	2.7	今後も情報発信に努めたい。	動りる機会を導うていることがある。人人に もっと子どもの主体性を育むようにしていか なければならない。
連 携	36							保	地域や保護者の意見に丁寧に対応している		3.2	3.0	2.7	2.7		
	37	学校目標の明確さ		3.1	3.1	3.1	2.9								・学校の組織的な対応や教員の危機 管理意識をさらに高めるために主任会	 ・地域総がかりの教育の推進は素晴らしいが、市の行事、地域の行事等で生徒会役員
	38	学校としての組織的な活動		3.1	2.9	3.0	2.8									や部活動生徒、さらに各担当者等の負担になっていないか心配である。
ъr.	39	勤務時間の適正化・業務改善		2.5	2.4	2.3	2.2									・留守番電話対応になったことに対して保証者や地域は、社会通念上、当然のことと認
学校運		設備施設の改善			2.6										を持ちながら、指導力や資質の向上に 努めたい。	戦してあり、遅和恩は愍していない。
運 営		報告連絡相談などの連携体制			3.0										・超過勤務時間の1割削減を目標にしているがなかなか達成できない。	
		危機管理対応			2.8											
		研修の充実度				2.9										